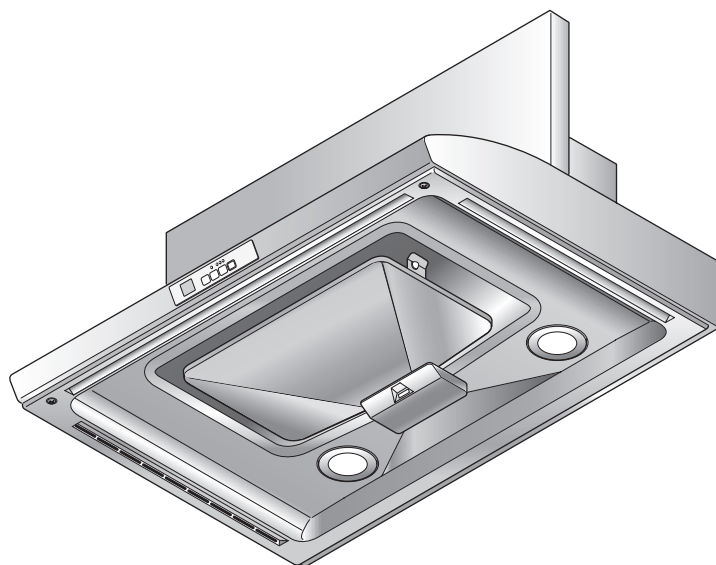


レンジフード

取扱説明書



もくじ

安全上のご注意.....	2~3
使用上のお願い.....	4
使いかた.....	5~7
各部のなまえ.....	5
ご使用前に.....	5
操作スイッチ.....	6~7
お手入れのしかた.....	8~19
取りはずしのしかた.....	9
組み立てのしかた.....	10
お手入れのしかた.....	11~12
オイルパネルのお手入れのしかた.....	13~14
ファンのお手入れのしかた.....	15~17
ランプ交換のしかた.....	18~19
故障かなと思ったら.....	20
仕様・アフターサービス.....	21
修理を依頼されるときは.....	22

販売店・工事店様へ：

この取扱説明書は取り付け後、
施主様へ必ずお渡しください。

このたびはレンジフードをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

ご使用される前に必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。

お読みになったあとは取付説明書とともにいつでも見られるところに大切に保管してください。

1302 6781



安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



警告

：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。



注意

：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

絵表示の例



○ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告



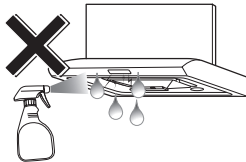
分解・修理 改造禁止

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造はしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります



水かけ禁止

- 電気部品（モーター・スイッチ等）は、水・洗剤等の液体につけたりかけたりしないこと
ショート・感電のおそれがあります



使用禁止

- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります



プラグを 抜く

- お手入れやランプ交換の際は必ず電源プラグをコンセントから抜く、または分電盤のブレーカーを切ること
感電やけがをするおそれがあります



分電盤



濡れ手禁止

- 電源プラグはぬれた手で抜き差ししないこと
感電やけがをするおそれがあります



ほこりを とる

- 電源プラグは、刃および刃の取付面にほこりが付着している場合はよく拭くこと
火災の原因になります



操作禁止

- ガス漏れのときは、スイッチを操作しないこと
爆発・引火のおそれがあります

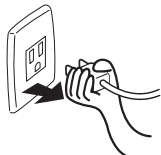
安全上のご注意

⚠ 注意



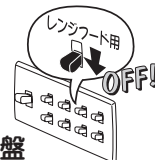
プラグを持って抜く

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜くこと
コードにキズが付き、火災や感電の原因になります



プラグを抜く

- 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く、または分電盤のブレーカーを切ること
絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります

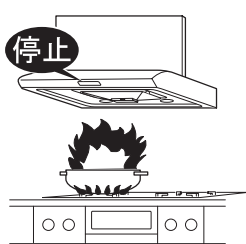


分電盤



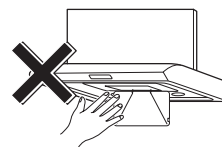
運転停止

- 調理中、油に火がついたときは、運転を止めること
運転をしていると火の勢いがより強くなり火災の原因になります



接触禁止

- 調理中は、整流板や周辺の部品に手を触れないこと
整流板や部品が落下して、やけどやけがをするおそれがあります



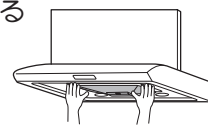
接触禁止

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります



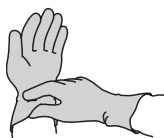
取付注意

- お手入れの際には必ずした整流板やファン、部品の取り付けは確実に起こすこと
落下によりけがをするおそれがあります



手袋をする

- お手入れの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



使用禁止

- 本体に異常な振動が発生した場合、使用しないこと
本体・部品の落下によりけがをするおそれがあります



使用禁止

- 指定以外のランプを使わないこと
ランプカバー周辺が高温となり、やけどをするおそれがあります
また、火災や故障の原因になります



高温注意

- ランプ交換の際は、ガラスやランプが十分冷めてからおこなうこと
やけどをするおそれがあります



禁止

- レンジフードの上に物を置かないこと
落下によりけがをしたり、火災や故障の原因になります



落下注意

- 部品の取り付けまたは取りはずしの際は、部品を落とさないように両手でしっかりと支えること
落下するとけがをしたり、部品のキズ・変形の原因になります



接触禁止

- ランプカバーおよびその周辺には、手を触れないこと
高温になるため、やけどをするおそれがあります



落下注意

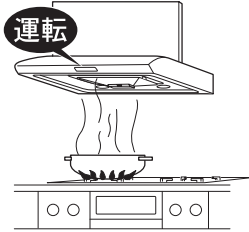
- 整流板を本体から取りはずさず、下図のような状態でお手入れをしないこと
落下するとけがをしたり、部品のキズ・変形の原因になります



使用上のお願い

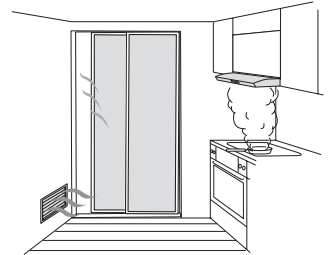
- 調理機器を使用するときは、必ずレンジフードを運転してください

運転しないとフード内の温度が上がり、製品の損傷や高熱による故障の原因になります



- レンジフードの運転中は給気をおこなってください

レンジフードの反対側の壁に空気の入入口を設けるか、部屋の扉を少し開けてください
空気の取り入れが不十分ですと換気性能が低下したり、レンジフードに異音・振動が発生する場合があります



- 部屋の扉や窓からの風が強い場合には、横風等の影響で煙の捕集性能が悪くなる場合があります

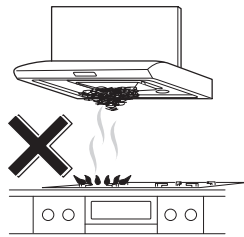
レンジフード近辺の扉や窓からの横風等の影響がないようにしてください

- エアコンの風が直接あたらないようにしてください

風を受けると、吸い込みが悪くなります
オープンな場所では特にレンジフードから漏れやすくなります

- 調理機器の空焚きは絶対にしないでください

製品の損傷や高熱による故障の原因になります



- 市販のフィルターに交換したり、重ねて使用しないでください

吸い込みが悪くなり、異音・振動が発生する場合があります
性能を維持するため、専用のフィルターをご使用ください



市販のグラスフィルター

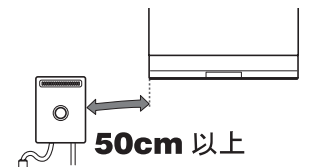
- IHクッキングヒーター（電気コンロ）を使用時、レンジフードがあたたまりにくいため、結露（水滴）が生じることがあります

お手数ですがその際は滴下する前に拭き取ってご使用ください

特に冬期など気温の低い状況では結露が発生しやすくなりますのでご注意ください

- 湯沸器はレンジフードから50cm以上離してください
レンジフードの下部には湯沸器を絶対に取り付けしないでください

製品の損傷や高熱による故障の原因になります



50cm以上

- グリル付の調理機器と合わせて使用する場合、グリル排気口から出る煙によって、壁パネルもしくはランプカバー表面が結露することがあります

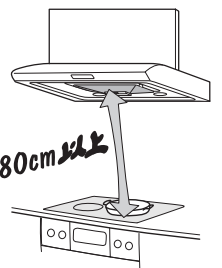
結露した場合は拭き取ってご使用ください

- 整流板をはずして使用しないでください

吸い込みが悪くなります

- 調理機器の真上、80cm以上に取り付けてあるか確認してください

火災予防のため、火災予防条例ではグラスフィルターの下端が調理機器の真上、80cm以上必要です



80cm以上

- キッチンの気温が低いときに使用された場合にはレンジフードの表面が結露することがあります

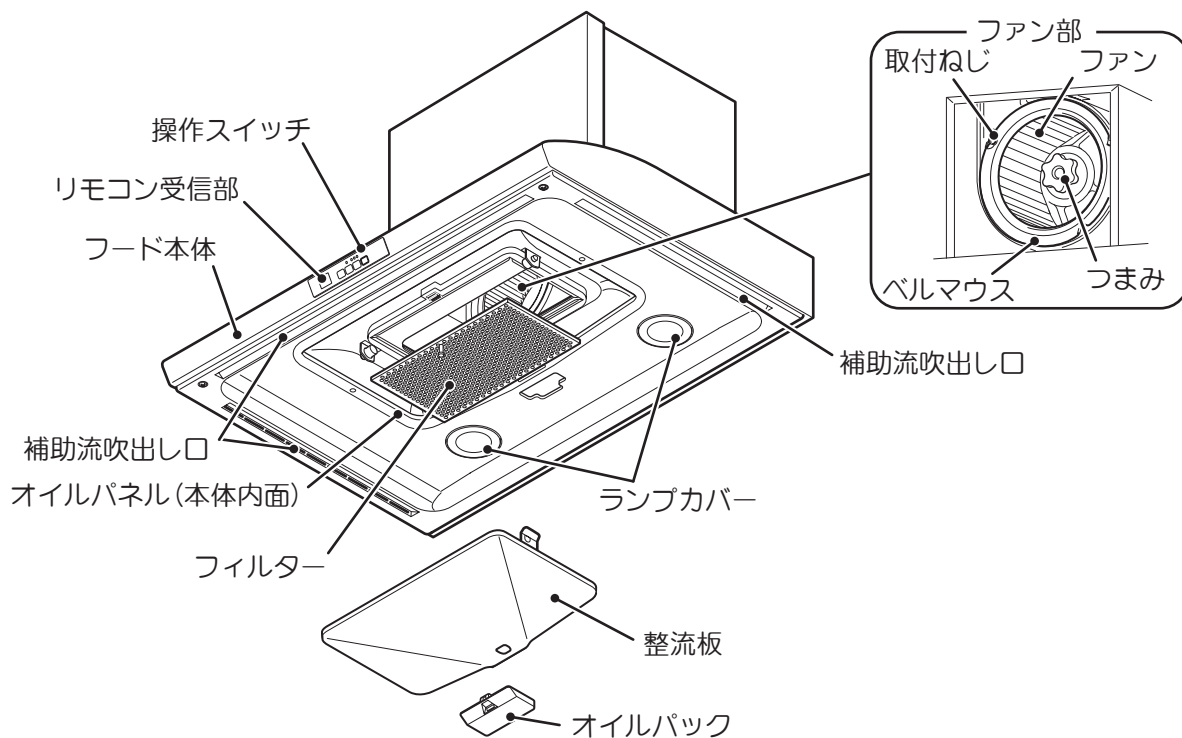
結露した場合は拭き取ってご使用ください

- レンジフードの照明（電球形蛍光灯）を点灯しているとき、近くでテレビやラジオを使用されると、雑音が入る場合があります
その際はテレビやラジオを遠ざけるか、またはテレビやラジオの向きを変えてください

- 電球形蛍光灯をご使用の場合、明るくなるまでに時間がかかります
また、点灯後しばらくは明るさや光色が若干変化します

使いかた

各部のなまえ

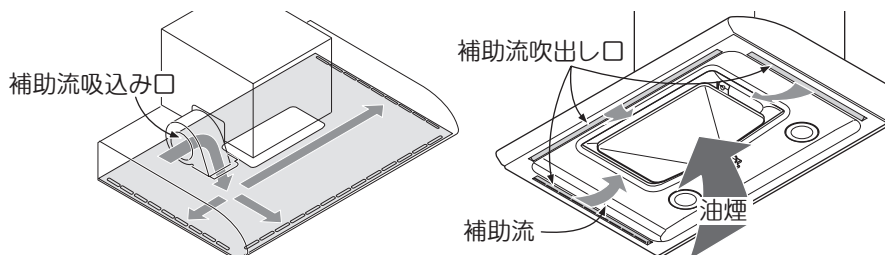


ご使用前に

オイルパックが所定の位置に正しくセットされているか確認してください。
※ オイルパックが正しくセットされていないと、油が調理機器に流れ落ちます。
オイルパックのセットの方法は10ページを参照してください。

■ 補助流について

このレンジフードは、補助流を出して捕集を促進しています。
補助流の経路をふさがないようにご注意ください。



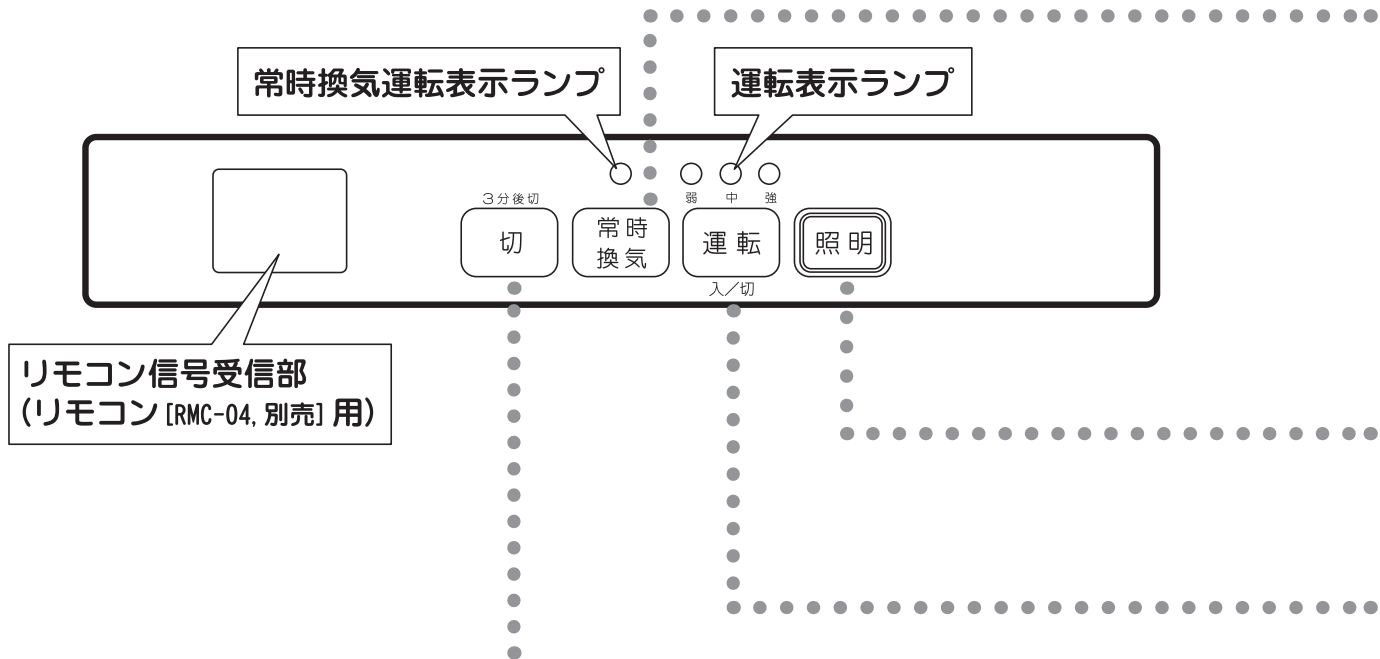
お願い

補助流吹出し口に異物を入れないでください。
(故障の原因になります。)


使いかた

操作スイッチ

※レンジフードの操作には別売リモコンスイッチ（品番：RMC-04）でもご使用になれます。
（リモコンスイッチでは常時換気の設定／解除、およびスイッチのロック／ロック解除はできません）




3分後切スイッチ


通常、調理が終わった後は、 スイッチを押してください。ご使用になっていた運転の運転表示ランプが点滅し、そのままの风量で約3分間運転し続けて自動的に運転を停止します。3分間のタイマー運転により、調理の後のにおいやファンについての油汚れなどを落とします。


※常時換気モードが設定されている場合は、約3分後に常時換気運転に切り替わります。

※照明は消えません。 を押すと消えます。

● スイッチの「ロック」（操作機能全てが「切」状態になります）

 スイッチを約3秒間押し続けると「ピー」と音が鳴り、スイッチがロックされ、ファンは停止し、照明も消灯します。

この状態で、 以外のスイッチを押しても「ピピッ」と警告音が鳴り、ファン・照明は作動しません。また、別売リモコンスイッチの操作もできません。

「ロック」を解除するには、もう一度「ピー」と音がするまで  スイッチを約3秒間押し続けます。ロック解除後は、必要に応じて常時換気、照明、運転・风量切替スイッチを再操作してください。

※ロック操作は調理を終え、レンジフードが十分冷めた状態でおこなってください。

※停電した場合やブレーカーを切った場合は、ロックは解除されます。


※リモコンスイッチではスイッチのロック／ロック解除はできません。

常時
換気

常時換気スイッチ

本レンジフードは建築基準法による住宅の常時換気をおこなう設備として使用できます。調理やお手入れのときを除き、連続換気ができます。（風量は「弱」よりも少ない微弱モードで運転します。）

スイッチを押すと常時換気モードに設定されます。常時換気モードを解除するには約3秒間押し続けます。

●常時換気運転時（常時換気運転表示ランプが点灯）に  スwitch（弱・中・強）を押すと、レンジフード運転に切り替わり、設定された風量で運転し続けます。

運転スイッチを「切」状態または  スwitchを押すと、常時換気運転に切り替わります。

※レンジフード運転時に常時換気の設定／解除はできません。（レンジフード機能が優先されます。）専用調理機器と連動運転の場合も同様です。

照明

照明入／切スイッチ

押すと照明が点灯します。スイッチを押すたびに点灯／消灯を繰り返します。

弱 中 強
運転
入／切

運転・風量切替スイッチ

スイッチを押すたびに設定が変わり運転表示ランプが切り替わります。但し「強」の次は「切」になります。（「切」の表示ランプはありません。）

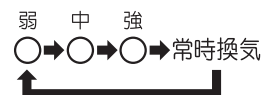
常時換気モードに設定されている場合は、「切」にすると常時換気運転に戻ります。

弱：煙の少ないとき。静かに運転したいとき。

中：通常の運転のとき。

強：煙の多いとき。早く換気したいとき。

切：運転を停止したいとき。常時換気に戻りたいとき。



レンジフード連動タイプ専用調理機器と組み合わせてご使用になる場合

- 連動調理機器を着火すると、自動的にレンジフードは「中」運転をおこないます。この状態からレンジフードのスイッチ（切、風量切替、照明）操作がおこなえます。
- 調理機器を消火した際、レンジフードは自動的に3分後に運転を停止しますが、照明や常時換気はもとのままの状態です。
- レンジフードの風量調節および照明の入／切などの操作を調理機器前面の操作パネルでもおこなえます。（詳細については調理機器の取扱説明書をご覧ください。）専用調理機器については当社までお問い合わせください。

お手入れのしかた

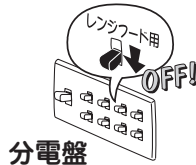
警告



プラグを
抜く

- お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く、または分電盤のブレーカーを切ること

感電やけがをするおそれがあります



分電盤



水かけ禁止

- 電気部品（モーター・スイッチ等）は、水・洗剤等の液体につけたりかけたりしないこと

ショート・感電のおそれがあります



濡れ手禁止

- 電源プラグはぬれた手で抜き差ししないこと

感電やけがをするおそれがあります

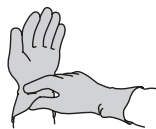
注意



手袋をする

- お手入れの際は、必ず厚手の手袋をすること

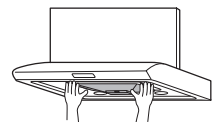
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付注意

- お手入れの際にははずした整流板やファン、部品の取り付けは確実にこなうこと

落下によりけがをするおそれがあります



お手入れの際のお願い

- 調理直後のお手入れはしない
 - ・ 調理直後はレンジフードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- おそうじはこまめにする
 - ・ 油が付着した状態で長期間ご使用になりますと、酸化した油で塗装面が変質して塗装はがれの原因になります。【変質がひどいと擦っただけではがれることがあります。】
 - ・ 特にフィルターは汚れやすいので、1ヶ月に1度程度の頻度でおそうじしてください。早めにおそうじいただきますと、汚れも簡単に落とせると同時に塗装面の劣化も防げます。

● 中性洗剤を使う

- ・ おそうじの際には台所用中性洗剤をご使用ください。右図のものを使用されますと塗装面が変色したり、キズが付いたり、はがれたりするおそれがあります。汚れがひどく、アルカリ性洗剤を使われる場合は、洗剤に表示されている使用上の注意をよくお読みになって、目立たないところで試してからご使用ください。

レンジフードの油汚れ落としに最適な、当社推奨の弱アルカリ洗剤「サットレールスプレー」、「サットレールシート」があります。お申し込み・お問い合わせは裏表紙をご覧ください。



● 熱湯は変形のもと

- ・ 60℃以上の熱湯は使用しないでください。樹脂部品が変形するおそれがあります。

● ファンを変形させない

- ・ ぶつかけたり、落としたりして変形したファンで運転すると、振動や異音が発生するおそれがあります。

● ファンをはずした状態では運転しない

- ・ ファンをはずした状態で運転しないでください。モーターが過熱して故障の原因になります。

● 専用のフィルター（製品にあらかじめセットしてあるもの）を使う、他のフィルターを重ねない

- ・ 専用のフィルター以外のフィルターを使用したり、他のフィルターを重ねたりすると、通気抵抗が大きくなり、吸い込み不良や異音発生、故障などの原因になるおそれがあります。

● 食器洗い乾燥機は使用しない

- ・ 取りはずした部品は食器洗い乾燥機で洗わないでください。塗装がはがれるおそれがあります。

ファン内部の汚れがひどい場合には、有償にて清掃を承っております。お問い合わせは裏表紙をご覧ください。

お手入れのしかた

取りはずしのしかた

お願い

必ず最初にオイルパックをはずしてから、整流板・フィルターをはずしてください。

1 オイルパックをはずします。
オイルパックを手前に引いて、油をこぼさないように水平に持ちながら、本体からはずしてください。

※油をこぼさないようにご注意ください。

2 整流板をはずします。
整流板を左右から両手で支え、少し押し上げながら上部両角のストッパーを押し込み、手前側を10cmくらい開きます。
そのまま整流板を手前に引きながら上に持ち上げ、後方の金具からはずします。

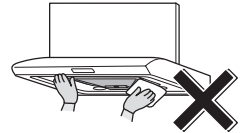
3 フィルターをはずします。
フィルターを手で支え、フィルターを固定しているフィルター押さえを手前にスライドさせます。
フィルターのとつてを持ち、手前やや下側に引き出します。

⚠ 注意

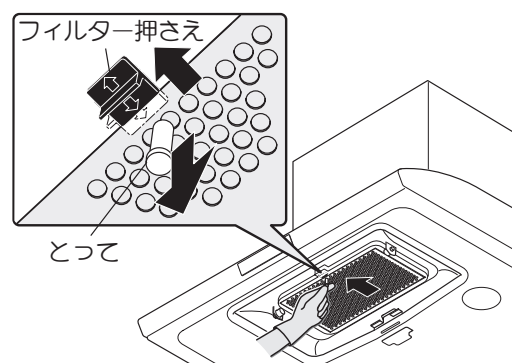
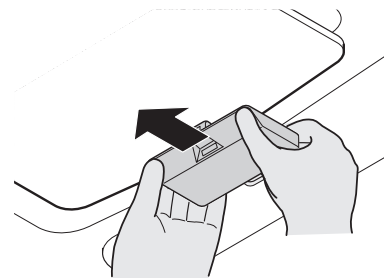


必ず守る

● 整流板を本体から取りはずさず、下図のような状態でお手入れをしないこと
落下するとけがをしたり、部品のキズ・変形の原因になります



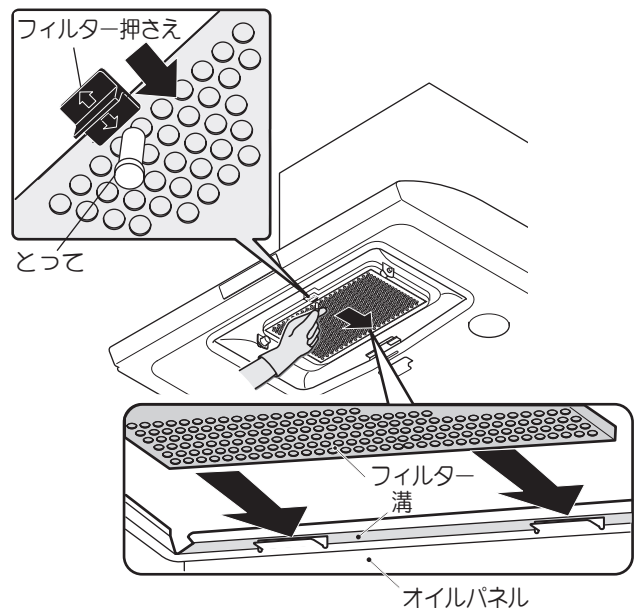
● 整流板をはずす前に必ずオイルパックをはずすこと
オイルパックが傾き、たまっていた油がこぼれ、調理機器や床などの油汚れの原因になります
また、落下した場合はけがやキズおよび油汚れの原因になります



お手入れのしかた

組み立てのしかた

- 1 フィルターを取り付けます。
オイルパネルの溝部分にフィルターを差し込み、固定用のフィルター押さえを奥側にスライドさせて固定します。

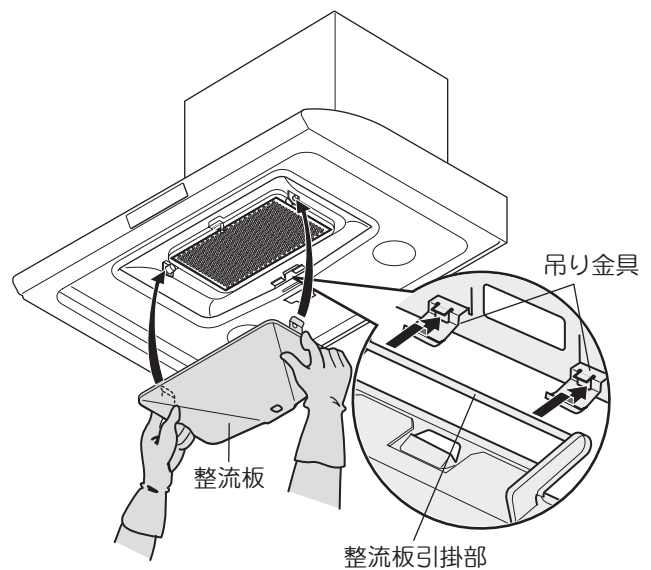


- 2 整流板を取り付けます。
整流板を左右から両手で支えながら後方の金具に引っ掛け、手前側を押し上げて上部両角のストッパーにより固定されるまで押し込みます。

※整流板を軽く上下に動かしてみて、確実に取り付けられたことを確認してください。

お願い

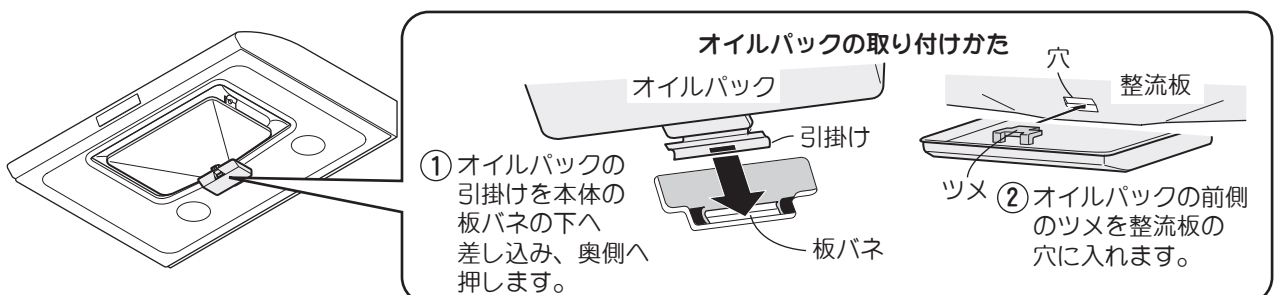
- 整流板の固定は確実にこなってください。
(ロックが不十分ですと落下の原因になります。)



- 3 オイルパックを取り付けます。
オイルパックを奥側の板バネに引っ掛けて、水平に奥まで差し込みます。

お願い

- オイルパックをはずした後は、ご使用前に必ず本体に取り付けてから運転してください。
※正しく取り付けられていないと、油や水滴が滴下したり落下によりけがをするおそれがあります。



お手入れのしかた

お手入れのしかた

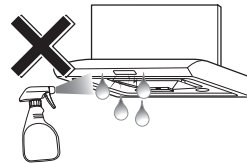
取りはずしのしかた、組み立てのしかたは、9～10ページをご参照ください。

警告



水かけ禁止

- 電気部品（モーター・スイッチ等）は、水・洗剤等の液体につけたりかけたりしないこと
ショート・感電のおそれがあります

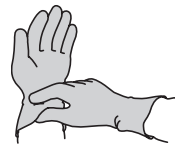


注意



手袋をする

- お手入れの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



こまめにおそうじしてください。

特にフィルターは汚れやすいので、1ヶ月に1度程度の頻度でおそうじしてください。

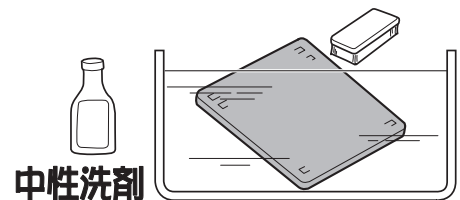
油が付着した状態で長期間ご使用になりますと、酸化した油で塗装面が変質して塗装はがれの原因になります。

早めにおそうじいただきますと、汚れも簡単に落とせますし、塗装面の劣化も防げます。

■ フィルター

（汚れたらその都度お手入れしてください。目安：1ヶ月に1回程度）
中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸したのち、表面のやわらかい布やスポンジなどで洗ってください。

汚れを落としたあと、洗剤が残らないように水洗いし、水気をとって
から取り付けてください。



中性洗剤

お願い

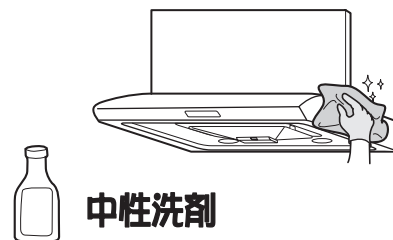
- フィルターはこまめにおそうじしてください。
目詰まりを放置すると、本体からの油漏れや換気不良、異音・振動の原因になります。

お手入れのしかた

■ 本体

(汚れたらその都度お手入れしてください。目安: 1ヶ月に1回程度)
ぬるま湯で薄めた台所用中性洗剤を表面のやわらかいスポンジや布に含ませ、汚れを拭き取ってください。

その後、洗剤が残らないように水で湿らせた布でよく拭き取ってください。



■ 整流板

(汚れたらその都度お手入れしてください。目安: 1ヶ月に1回程度)
ぬるま湯で薄めた台所用中性洗剤を表面のやわらかいスポンジや布に含ませ、汚れを拭き取ってください。

その後、洗剤が残らないように水で湿らせた布でよく拭き取ってください。



※ 整流板お手入れの際には本体のパネル面も同時におそうじしてください。(油ダレの原因となるおそれがあります)

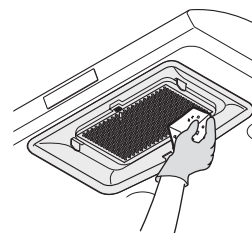
オイルパネルのはずしかたとお手入れのしかたについては13～14ページをご覧ください。

お願い

● はずした整流板は平らな面でお手入れしてください。変形・キズの原因になります。

※ 金属ブラシやタワシなどの固いものは、処理面をキズ付けますので使用しないでください。

※ アルカリ性洗剤を使用しますと、変色のおそれがあります。



■ オイルパック

(汚れたらその都度お手入れしてください。目安: 1ヶ月に1回程度)
中性洗剤溶液に浸した布で汚れを拭き取ったあと、洗剤が残らないよう、清水で湿らせた布で洗剤を良く拭き取ってください。

特に下端部は汚れが付きやすいのでこまめに拭き取ってください。



※ 完了後は、電源プラグを抜いた場合は電源プラグを差し込んでください。
ブレーカーを切った場合は、ブレーカーを入れてください。

お手入れのしかた

レンジフードを長期にお使いになり、汚れがひどい場合でオイルパネルおよびファンもお手入れする場合には、次の手順でお手入れをおこなってください。

オイルパネルのお手入れのしかた

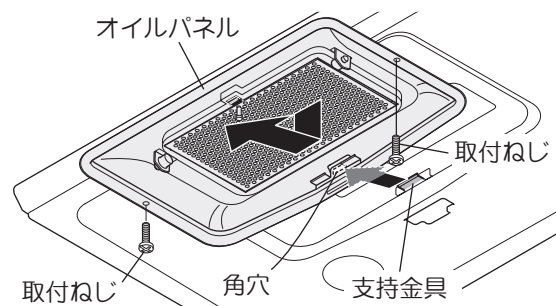
■ オイルパネルのはずしかた

- 1 オイルパック・整流板・フィルターをはずします。
(はずしかたは9ページを参照してください)

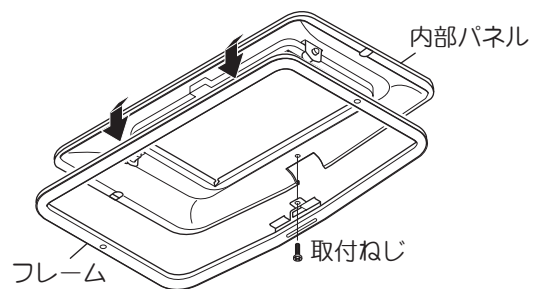
お願い

- 落下させないように十分ご注意ください。

- 2 オイルパネルをはずします。
左右2本の取付ねじをはずしてそのまま手前に引き出し、奥側の支持金具から取りはずします。



- 3 オイルパネルを分解します。
取付ねじをはずし、フレームと内部パネルに分解します。



お手入れのしかた

■ オイルパネルの洗いかた

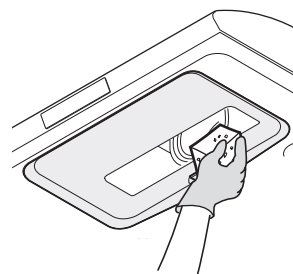
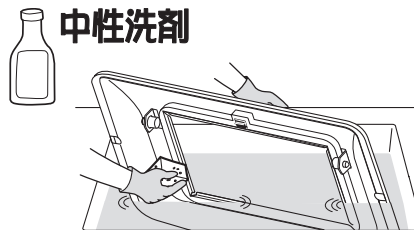
内部パネルおよびフレームを中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて洗ってください。
汚れを落としたあと、洗剤が残らないよう水洗いし、水気を取ってから取り付けてください。

※ オイルパネルのお手入れの際には、本体のパネル面も同時におそうじしてください。
(油ダレの原因となるおそれがあります。)

お願い

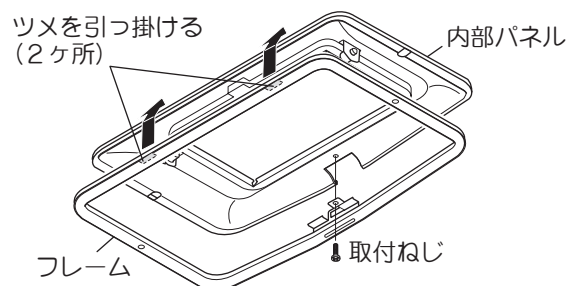
- 金属ブラシやタワシなど、キズの付くもので洗わないでください。

中性洗剤

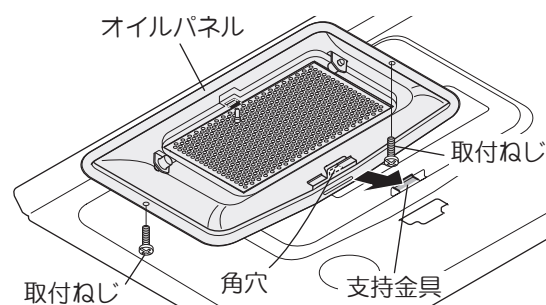


■ オイルパネルの取り付けかた

1 オイルパネルを組み立てます。
フレームの前側2ヶ所のツメを内部パネルに引っ掛けてから、取付ねじでフレームに内部パネルを取り付けます。



2 オイルパネルを取り付けます。
奥側の穴を支持金具に引っ掛け、左右2本の取付ねじで固定します。



3 オイルパック・整流板・フィルターを取り付けます。
(取り付けかたは10ページを参照してください)

お手入れのしかた

ファンのお手入れのしかた

汚れがひどい場合でファンもお手入れする場合には次ページの手順でおこなってください。

警告



プラグを
抜く

- お手入れの際は、必ず電源プラグを抜く、または分電盤のブレーカーを切ること

感電やけがをするおそれがあります



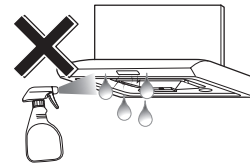
分電盤



水かけ禁止

- 電気部品（モーター・スイッチ等）は、水・洗剤等の液体につけたりかけたりしないこと

ショート・感電のおそれがあります



濡れ手禁止

- 電源プラグはぬれた手で抜き差ししないこと

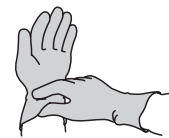
感電やけがをするおそれがあります

注意



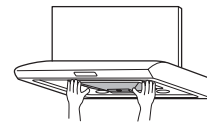
手袋をする

- お手入れの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付注意

- お手入れの際にはずした整流板やファン、部品の取り付けは確実にこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります



お手入れのしかた

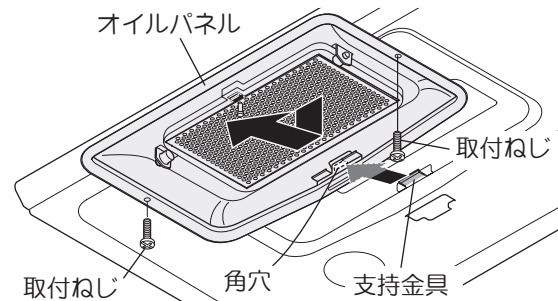
■ ファンのはずしかた

1 オイルパック・整流板をはずします。
(はずしかたは9ページを参照してください)

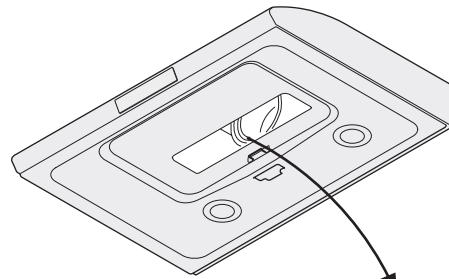
お願い

●落下させないように十分ご注意ください。

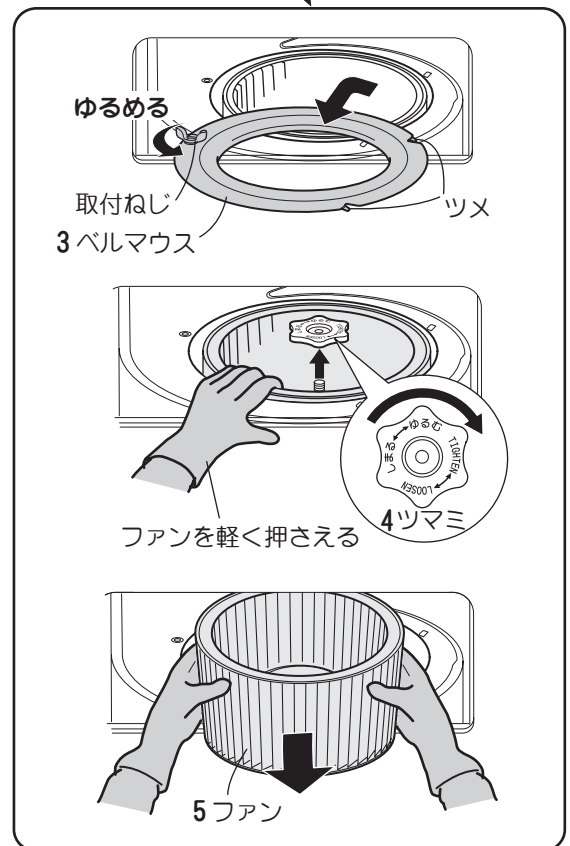
2 オイルパネルをはずします。
左右2本の取付ねじをはずし、手前に取りはずします。



3 ベルマウスをはずします。
ベルマウスの取付ねじ1ヶ所を手でゆるめ、2ヶ所のツメをはずして取りはずします。



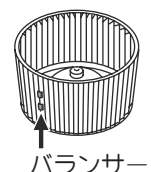
4 ツマミをはずします。
ファンが回らないように軽く手で押さえ、ツマミを「ゆるむ」(時計回り)の方向に回してはずしたあと、ファンを取り出します。
※ファンは軽く押さえてください。
(強く押さえると変形するおそれがあります。)



5 ファンをはずします。
ファンを取り出します。

お願い

- ファンをぶついたり、落としたりしないでください。
(変形・破損すると、異音の原因になります。)
- ファンの回転バランスをとるために、バランスー(重り)がついている場合がありますが、絶対にはずさないでください。(バランスがくずれ、吸い込みが悪くなったり、異音の原因になります。)



お手入れのしかた

■ ファンの洗いかた

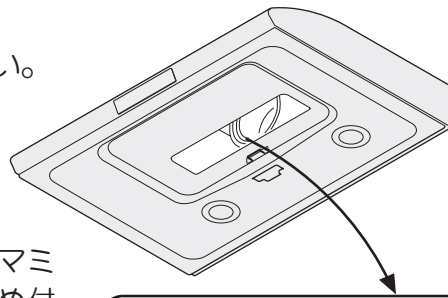
ファンを本体からはずし、中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて洗ってください。

汚れを落としたあと、洗剤が残らないよう水洗いし、水気をとってから取り付けてください。



■ ファンの取り付けかた

1 ファンを取り付けます。
ファンをモータ軸の根元まで差し込んでください。



2 ツマミを取り付けます。
ファンが回らないように軽くおさえながら、ツマミを「しまる」（反時計回り）の方向に回して締め付けてください。

※ファンは軽くおさえてください。
強くおさえると変形するおそれがあります。

3 ベルマウスを取り付けます。
1) ベルマウスのツメ部2ヶ所を引っ掛けたあと、取付ねじ1ヶ所を締め付けて固定してください。

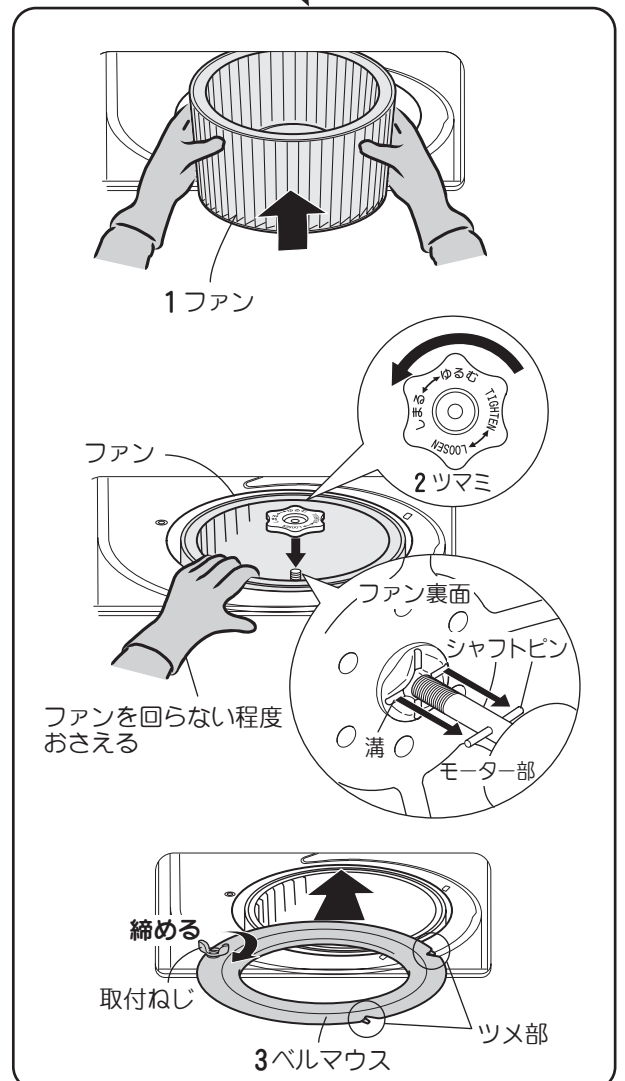
2) ベルマウスを取り付けてから、ファンを手で回してこすれ音などが無いことを確認してください。

お願い

●ファン・ベルマウスは確実に取り付けてください。
(異常音や故障の原因になります。)

4 オイルパネルを取り付けます。
奥側の穴を引っ掛け、左右2本の取付ねじで固定します。
(取り付けかたは14ページを参照してください)

5 オイルパック・整流板を取り付けます。
(取り付けかたは10ページを参照してください)



※完了後は、電源プラグを抜いた場合は電源プラグを差し込んでください。
ブレーカーを切った場合は、ブレーカーを入れてください。

お手入れのしかた

ランプ交換のしかた

ご使用のランプが切れたときは、下記の市販の電球形蛍光灯またはミニ電球を購入し、交換してください。

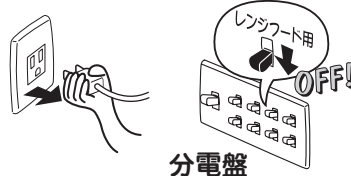
- 電球形蛍光灯 定格100V 電球40W形 □金E17
形名EFD10E形（取付可能寸法：長さ91mm以下、直径45mm以下）
- ミニ電球 定格100V 40W形 □金E17

警告



電源を切る

- ランプ交換の際は、必ず電源プラグを抜く、または分電盤のブレーカーを切ること
感電やけがをするおそれがあります



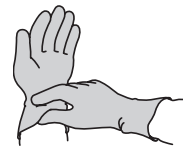
分電盤

注意



手袋をする

- ランプ交換の際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



使用禁止

- 指定以外のランプを使わないこと
ランプカバー周辺が高温となり、やけどをするおそれがあります
また、火災や故障の原因になります



高温注意

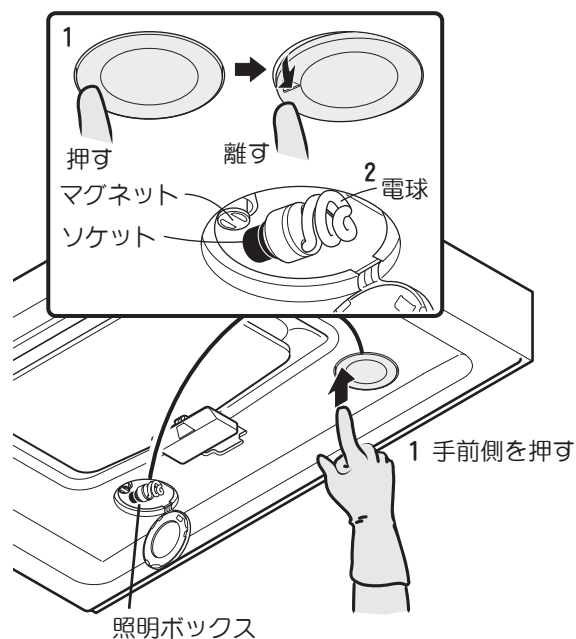
- ランプ交換の際は、ガラスやランプが十分冷めてからおこなうこと
やけどをするおそれがあります

お手入れのしかた

- 1 ランプカバーを開きます。**
カバーの手前側（▽部）を押し上げ、手を離すとカバーの端が少し下がります。
端に手をかけてカバーを開きます。
※カバーの手前側はマグネットでロックされています。

- 2 ランプをはずします。**
切れたランプを取りはずし、照明ボックス内のソケットに新しいランプを確実に固定します。

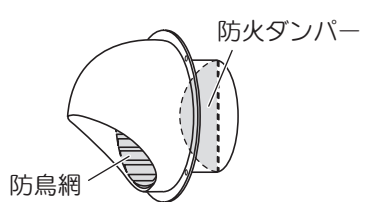
- 3 ランプカバーを取り付けます。**
ランプカバーを閉め、手前側（▽部）を一度押し上げて、手を離すとカバーは所定の位置に戻ります。



※完了後は、電源プラグを抜いた場合は電源プラグを差し込んでください。
ブレーカーを切った場合は、ブレーカーを入れてください。

故障かなと思ったら

修理を依頼されるまえに 次の点をもう1度お調べください。

症 状	考えられる原因	処 置
<ul style="list-style-type: none"> ● スイッチを入れてもファン・照明の電源が入らない。 ● ファンがまわらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 分電盤のブレーカーが「切」になっている。 ● 電源プラグがはずれている。 ● ロック状態になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 分電盤のブレーカーを「入」にする。 ● 電源プラグを差し込む。 ● ロックを解除する。(6ページ参照)
<ul style="list-style-type: none"> ● 照明がつかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ランプが切れている。 ● ランプの取り付けがゆるんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ランプの交換をする。 ● ランプを取り付け直す。(19ページ参照)
<ul style="list-style-type: none"> ● リモコンスイッチを操作しても動作しない。(別売リモコンを使用している場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池が消耗している。 ● 電池の向きが間違っている。 ● リモコンの発信部や本体操作スイッチの受信部が油で汚れている。 ● ロック状態になっている。(ロック状態ではリモコンスイッチを押すと「ピピッ」という音がします。) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池を交換する。 ● 電池を正しく入れる。 ● 発信部・受信部をそうじする。 ● ロックを解除する。(6ページ参照)
<ul style="list-style-type: none"> ● 弱・中・強の表示ランプが点滅する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロック状態になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ロックを解除する。(6ページ参照)
<ul style="list-style-type: none"> ● 異常音がする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ファンのツマミがゆるんでいる。 ● フィルターが汚れて目詰まりしている。 ● 外からの給気が十分でない。 ● ファンの取り付けが不十分。 ● ベルマウスの取付ねじがゆるんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ファンのツマミを締め直す。 ● フィルターをそうじする。(11ページ参照) ● 窓・給気口を開け、十分な給気を確保する。 ● ファンのツマミを締め直す。(17ページ参照) ● ベルマウスの取付ねじを締め直す。(17ページ参照)
<ul style="list-style-type: none"> ● 吸い込みが悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市販のフィルターを重ねている。 ● フィルターが汚れて目詰まりしている。 ● 外からの給気が十分でない。 ● エアコンや窓からの風で煙が横にもれる。 ● 屋外のベントキャップの防鳥網が目詰まりしている。 ● 屋外の防火ダンパーが閉じていて、排気されない。 <div style="text-align: center;">  <p>防火ダンパー</p> <p>防鳥網</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市販のフィルターをはずす。 ● フィルターをそうじする。(11ページ参照) ● 窓・給気口を開け、十分な給気を確保する。 ● 風があたらないようにする。 ● 修理を依頼する。 ● 修理を依頼する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 運転が止まらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 常時換気モードが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 常時換気モードを使用しない場合は設定を解除する。(7ページ参照)

仕様

型名	定格電圧 (V)	ノッチ	定格周波数 (Hz)	消費電力 (W)	風量 (m ³ /h)		騒音 (dB)	製品質量 (kg)
					0 Pa	100 Pa		
間口 750	100	強	50	105	540	440	47.5	22.5
			60	130	510	450	47	
		中	50	75	380	—	39	
			60	80	330	—	35	
間口 900		弱	50	40	160	—	21	24.0
			60	38	150	—	21	
		常時 換気	50	18	90	—	17	
			60	22	110	—	18	

消費電力、風量、騒音の測定は JIS C 9603 による。

騒音値、風量は実際の使用条件では変化しますのでご了承ください。

レンジフードに使用している部品は、性能向上などのために予告なしに一部変更することがあります。

アフターサービス (必ずお読みください)

補修用性能部品の最低保有期間

- 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後6年保有しています。
(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- 製品の保証期間は、お買い上げ後取扱説明書、本体貼付ラベルの注意書に従った正常なご使用状態において1年間です。

ただし、次の場合には保証期間内でも有料になります。

- (1) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、異常電圧等不慮の事故により生じた故障および損傷。
- (2) 使用上の誤り、改造等による故障および損傷。

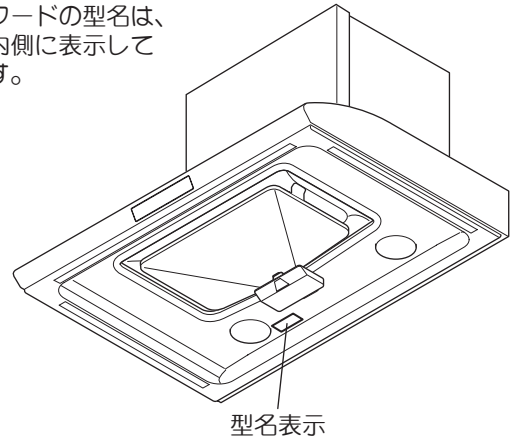
修理を依頼されるときは

20 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときはご使用を中止し、必ず電源プラグを抜くか、分電盤のブレーカーを切ってから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容	
品名	レンジフード
型名	
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども併せてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

お買い上げの際に記入しておくことでサービスを依頼されるときに便利です。

レンジフードの型名は、本体の内側に表示してあります。



愛情点検



ご使用の際、このような症状はありませんか？

- スイッチを入れても、動かないときがある。
- 運転中に異常な音や振動がある。
- 焦げ臭いにおいがする。
- その他、異常・故障がある。

ご使用中

このような症状のときは、故障や事故防止のため、ブレーカーを切り、必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

修理料金の仕組み

- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
- 技術料は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。
- 出張料は、お客様のご依頼により、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

メモ

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

(本体への表示内容)

※ 経年劣化により危害の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた右の内容の表示を本体におこなっています。

(設計上の標準使用期間とは)

※ 運転時間や温湿度など、標準的な使用条件に基づく経年劣化に対して、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。

※ 設計上の標準使用期間は、無償保障期間とは異なります。また、偶発的な故障を保証するものでもありません。

● 「経年劣化とは」
長期間にわたる使用や放置に伴い生ずる劣化をいいます。



【製造年】本体に西暦4ケタで表示してあります。

【設計上の標準使用期間】10年

設計上の標準使用期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

■標準使用条件

日本工業規格 JIS C 9921-2 より引用

環境条件	電圧	単相 100V	
	周波数	50Hz 又は/及び60Hz	
	温度	20℃	JIS C 9603参照
	湿度	65%	JIS C 9603参照
	設置条件	標準設置	取付説明書による
負荷条件		定格負荷 (換気量)	取扱説明書による
想定時間	1年間の使用時間	換気時間 ^{a)}	
		台所 2 410時間/年	
注 a) 常時換気 (24時間連続換気) のものは、8 760時間/年とする。			

お客様の個人情報のお取り扱いについて

当社および当社関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記の通り、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、当社製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。

なお、修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供いたしません。

2. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。


3. お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

修理依頼について

修理を依頼される時は、お買い上げの販売店、またはシステムキッチンメーカーにご連絡ください。

	購入店名	電話	()
お客様メモ	(システムキッチンメーカー名 :)		
	ご購入年月日	平成	年 月 日

『サットレールスプレー』『サットレールシート』の
お取り扱い窓口は
フジテックメンテナンス株式会社

〔製造元〕  **富士工業株式会社**
〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1-9

お申し込み・お問い合わせ ☎0120-953-903
FAX 042-768-3383
ホームページ <http://www.satlehl.jp/>
受付時間 9:00~17:45 (土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く)

お客様ご相談窓口 ☎0120-071-686
受付時間 9:00~18:00 (土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く)